

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：34304
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2016～2019
 課題番号：16K02625
 研究課題名(和文) アフリカ諸語における声調・アクセント体系のタイポロジー

研究課題名(英文) typology of African tone/accent languages

研究代表者

梶 茂樹 (KAJI, Shigeki)

京都産業大学・現代社会学部・教授

研究者番号：10134751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：アフリカには声調言語が多い。声調言語というと中国語ペキン方言など東アジアの単音節言語を思い浮かべることが多いが、アフリカにはバンツール系言語のように、多音節の声調言語が多く存在する。また日本語アクセント論で一型、二型などと呼ぶものに似たアクセント体系も多く存在する。本研究は報告者がこれまでアフリカで行ってきた調査で得られた成果を総合すると同時に、文献研究、また研究協力者との研究会などを通じて、アフリカ諸語の声調・アクセント体系の類型論特徴を明らかにすることを目的とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフリカには声調言語が多いが、十分知られているとは言い難い。日本では声調言語というと中国語ペキン方言など東アジアの単音節言語を思い浮かべることが多い。しかしアフリカにはバンツール系言語のように、多音節の声調言語が多く存在する。また日本語アクセント論で一型、二型などと呼ぶものに似たアクセント体系も多く存在する。本研究は、現地調査、また文献研究などにより、アフリカ諸語の声調・アクセント体系の類型論特徴を明らかにすることを目的とした。このような研究はかつてなく、これにより、世界的視野での声調・アクセント言語の研究基盤が整ったと考える。

研究成果の概要(英文)：Many of the African languages are tone (or accent) languages, and interestingly they are polysyllabic, a fact which is different from Asian tone languages such as Chinese which are monosyllabic. In Africa we also find systems which are similar to Japanese dialects which are characterized as having a one-pattern, two-pattern, or three-pattern accent system. This research is a synthesis of what the reporter has done about African tone languages, referring also to results of other researchers' works in order to clarify the typological characteristics of African tone (or accent) languages.

研究分野：言語学

キーワード：声調 アクセント アフリカ 類型

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

声調言語というと中国語ペキン方言など東アジアの単音節言語を思い浮かべることが多いが、世界の声調・アクセント言語は様々である。アフリカには多音節語の声調言語も存在するし、また日本語アクセント論で一型、二型などと呼ぶものに似たアクセント体系も存在する。しかし、アフリカの言語数は非常に数が多く、その実態は十分に理解されているとは言い難いのが実情である。

2. 研究の目的

本研究は、報告者がこれまでアフリカ諸国で行ってきた現地調査で得られた成果を総合すると同時に、更なるフィールド調査と文献研究、また研究協力者との研究会などを通じて、アフリカ諸語の声調・アクセント体系の類型論特徴を明らかにすることを目的としたものである。そして、ひいては日本語を含む世界の声調・アクセント言語の全体像を理解することにつなげていきたいと考える。

3. 研究の方法

コンゴ東部のテンボ語、フンデ語、ナンデ語、ハヴ語、ヴィラ語、タンザニア北東部のハヤ語、ウガンダ西部のアンコレ語、トーロ語、ニョロ語など、報告者がすでにアフリカで行ってきた調査による成果をベースにし、それに文献研究と更なる現地調査を加え、できるだけ多くのアフリカ諸語の声調・アクセント体系のパターンを明らかにすることとした。研究分担者はいなかったが、適宜、研究協力者などの協力をえて研究を行った。とりわけ各年度の終わりには国内の代表的アフリカ諸語研究者を交えて研究会を開催し、その言語の全体像を見つづ声調・アクセント体系の類型論的考察を行なった。そして最終年度には国内の研究者に加えて、フランス、スウェーデンから研究者を招き、総合的研究会を開催した。

4. 研究成果

アフリカは言語が多く (SIL International によれば 2000 以上)、その多くが声調・アクセント言語である。また同じ系統の言語の中にも、例えばニジェール・コンゴ系のアトランティック諸語のように、声調言語であるものとそうでないものがある。本研究では、報告者が今までに現地調査で得たデータを総合的に考察するとともに文献研究により、アフリカのできるだけ多くの言語の声調・アクセント体系を類型論的にまとめることを目的とした。

多音節語の声調言語については、報告者が調査した中ではコンゴのテンボ語の例がある。テンボ語を含むバンツ系諸語では、一般に単語は接頭辞+語幹という構造を持つため、単語の長さは 2 モーラ (あるいは 2 音節) 以上となる。テンボ語の声調のパターン数は、高低の声調数 2 を底とし単語のモーラ数 n に従って、 2^n という風に等比級数的に増えていく (ただしそれ以上のモーラ数となると単語自体が少なくなり、5 モーラ語では 13 パターン、6 モーラ語では 5 パターンしか実現されない)。タンザニアのロンボ語やナミビアのヘレロ語もこのタイプに近い。

タンザニアのハヤ語では、声調のパターン数は東京方言と同じように $n+1$ という風に等差級数的に増えていく (n は語幹の音節数)。なお単独形では語末の H は次末音節に、そして次末音節の H は F として実現される。その北に話されるウガンダのアンコレ語は、体系としてはハヤ語と同じでありながら、単独形では、語末の H が次末音節に H として実現され、そして次末音節の H もその位置で H として実現されるため、2 つパターンが融合する。しかしながら、所有形容詞などを名詞に後接させ、単語の後のポーズを除くと基底形が現れ、基底形ではすべてのパターンが区別される。

面白いことに、ガーナのアカン語、エチオピアのウォライタ語では声調のパターン数は単語の音節数に関係なく3パターンである。ウガンダのニョロ語では単語の音節数に関係なく2パターンである。またニョロ語の南に話されるトーロ語では1パターンしかない。

アカン語、ウォライタ語、ニョロ語、トーロ語は日本語アクセント論でいうN型アクセントであるが、報告者のアフリカでの調査では現在までのところ、一型、二型、三型はあるが、四型、五型というパターンは見出していない。Leben (1973)によるとシエラレオネのメンデ語は五型であるというが、このLebenの分析はメンデ語の実情を反映していないという指摘がある。

1人の人間が全ての言語を見るわけにはいかないので、多くのデータを得ようとすれば文献に頼らざるをえないが、データの質については注意する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Kaji, Shigeki	4. 巻 26
2. 論文標題 HOW DID SWAHILI EXPAND AS FAR AS EASTERN CONGO? AN ACCOUNT FROM ITS STRUCTURAL BASIS	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Swahili Forum	6. 最初と最後の頁 173-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Childs, Tucker, Petter Marigarida, Kaji, Shigeki, Xiaomeng, Sun, Chul-Joon, Yang and Hajek, John	4. 巻 1
2. 論文標題 African Linguistics in the Americas, Asia, and Australia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Cambridge Handbook of African Linguistics	6. 最初と最後の頁 128-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/9781108283991	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Kaji, Shigeki, Xiaomeng, Sun, Chul-Joon, Yang and Hajek, John	4. 巻 1
2. 論文標題 African Linguistics in Asia and Australia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 A History of African Linguistics	6. 最初と最後の頁 233-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/9781108283977	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 梶 茂樹	4. 巻 21
2. 論文標題 ニヨ口語の人名	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 一般言語学論叢	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 梶 茂樹	4. 巻 52
2. 論文標題 ニヨロ語のタブー表現：その記述と分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都産業大学論集. 人文科学系列	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaji, Shigeki	4. 巻 1
2. 論文標題 Nyoro (JE11)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu	6. 最初と最後の頁 308-331
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaji, Shigeki	4. 巻 51
2. 論文標題 Do we need to postulate a different tone pattern for monosyllabic verbs in Nyoro?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都産業大学論集 人文科学系列	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaji, Shigeki	4. 巻 27
2. 論文標題 From Nyoro to Tooro: Historical and Phonetic Accounts of Tone Merger	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonology and Phonetics	6. 最初と最後の頁 330-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kaji, Shigeki	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 On the Intransitive usage of transitive verbs in Tooro, a Bantu language of Western Uganda	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of African Languages and Linguistics	6. 最初と最後の頁 187-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 梶茂樹	4. 巻 2
2. 論文標題 非洲的語言与社会	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 非洲研究	6. 最初と最後の頁 192-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Kaji, Shigeki
2. 発表標題 Looking at Contemporary Languages through a Diachronic Perspective: The case of Tone of West-Ugandan Bantu Languages
3. 学会等名 Workshop "Microvariation in South African Languages" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaji, Shigeki
2. 発表標題 A Comparative View of Tone of West-Ugandan Bantu Languages through Field Research
3. 学会等名 ReNeLDA言語ドキュメンテーションセミナー (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梶 茂樹
2. 発表標題 ニヨ口語のタブー表現
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶 茂樹
2. 発表標題 ニヨ口語のタブー表現：その記述と分析
3. 学会等名 日本アフリカ学会関西支部例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶 茂樹
2. 発表標題 アフリカにおける多言語使用 特にコンゴ民主共和国とウガンダの例を中心に
3. 学会等名 日本フランス語学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶 茂樹
2. 発表標題 キガ語の声調
3. 学会等名 アフリカ諸語における声調・アクセントの総合的研究
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaji, Shigeki
2. 発表標題 On the homology of the object relative construction and the subordinate I form in Nyoro verb conjugation
3. 学会等名 The 7th International Conference on Bantu Languages (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶 茂樹
2. 発表標題 無文字社会の文字的コミュニケーション アフリカでの言語調査から
3. 学会等名 日本ことわざ文化学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶 茂樹
2. 発表標題 日本学術会議提言「ことばに対する能動的態度を育てる取り組み - 初等中等教育における英語教育の発展のために」をめぐって
3. 学会等名 日本学術会議夏季部会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梶茂樹
2. 発表標題 アフリカ人のコミュニケーション
3. 学会等名 地球ことば村シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梶茂樹
2. 発表標題 無文字社会の文字的コミュニケーション アフリカでの言語調査から
3. 学会等名 大阪国際サイエンスクラブ 特別懇談会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Shigeki Kaji (ed.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 445
3. 書名 Proceedings of the 8th World Congress of African Linguistics	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考